

# データの活用方法 ～今回計算した結果はどこに保存・管理されているの？

今後、本予測計算をもとにした検討成果を温暖化の影響評価等に広く活用していくためには、ユーザーの利便性を考慮しつつ、データを一般に公開していくことが重要です。そのために、東京大学が文部科学省からの委託を受けて、運用管理を行っている「地球環境情報統合プログラム」の「データ統合・解析システム(DIAS)」内に本予測計算結果のデータを保存し、そこから広く一般に公開しています<sup>29</sup>。

ユーザー登録をすることによって、ユーザーは、DIASに登録・保管されている各種データを利用することができます。また、具体的なデータ利用を促進するため、「気候変動予測結果のデータ管理マニュアル」を作成しています。

## ■ DIASにて保存・公開するデータ

### 1 地域気候変動予測データ

本データセットは、気象庁気象研究所地域気候予測モデル（MRI-NHRCM20）の出力値と、同出力値に対して統計処理を施して作成したデータとで構成されます。本パンフレットで紹介した将来予測結果、現在気候再現性については、本データセットのデータを用いて算出したものです。

本データセットに含まれるファイル形式は次のとおりです。

- Processedデータ：影響評価等でニーズが見込まれるデータ項目について、NetCDF形式で提供しています。
- バイアス補正データ：バイアス補正を施したデータについて、テキスト形式で提供しています。
- Rawデータ：MRI-NHRCM20モデルから直接出力された未加工のデータについて、さらに詳細な解析を行う場合に備えて提供しています。

### 2 全球気候変動予測データ

本データセットは、気象庁気象研究所全球大気気候予測モデル（MRI-AGCM3.2H）の出力値で構成されます。本データセットに含まれるファイルは、MRI-AGCM3.2Hモデルから直接出力された未加工のデータ（Rawデータ）のみを提供しています<sup>30</sup>。

なお、日本付近での気候変動影響評価等の詳細な検討を行う際には、本データセットを境界条件としてさらに解析を行った結果である地域気候変動予測データ（MRI-NHRCM20のデータセット）を使用することが推奨されます（空間解像度が小さいので、より細かな気象現象を再現したデータを得ることができます）。

29----- データの公開名称は、「環境省 全球気候変動予測データ（協力：気象庁）」及び「環境省 地域気候変動予測データ（協力：気象庁）」である。またDIASのURLを以下に示す。

<http://www.editoria.u-tokyo.ac.jp/projects/dias/>

30----- Rawデータは気象庁気象研究所の独自フォーマットで構成されている。一般の方の利用は想定していない。